

令和6年度 東広島市教育委員会主催・広島大学マスタース共催市民講座  
「英語通訳・翻訳の視点から ～ 異文化コミュニケーションの落とし穴～」

広島大学マスタース会員 谷本 秀康

本講座は、講師の都合で4回ではなく3回の実施となりました。

(1) 2024年12月14日(土)

先ず「言葉」と「異文化コミュニケーション」の意味を、本年8月に開催した前シリーズ「国際語としての英語～異文化コミュニケーションの落とし穴～」の講義内容に基づいて再度確認した。それに基づいて「翻訳」と「通訳」の違いを、実例を挙げながら、きめ細かく解説。文字入力(文字を読んで理解する行為)と音声入力(聞いて理解する行為)がどれほど異なるかについて説明し、誤訳(誤解)の可能性を指摘した。その後、質疑応答の時間をもうける。

(2) 2024年12月21日(土)

前出のD.C.バーンランド(全シリーズの第2回(2024年8月24日開催))の対人間方程式に言及し、「社会的文化的意味」の語レベルの相違に加えて、言外の意味を重視する「日本の意思疎通形式」と率直さを重んじる「アメリカ的意思疎通形式」との違いに起因する誤解の例を列挙して解説。それに加えて日本人の「集団志向」とアメリカ人の「個人志向」の相違に原因を發する誤解の事例を挙げて異文化コミュニケーションの落とし穴を深堀した。その後、質疑応答の時間をもうける。

(3) 2025年1月11日(土)

同時通訳者の草分けである西山千(にしやま・せん)氏に係わる誤訳や、佐藤・ニクソン会談、中曽根・レーガン会談における通訳に係わる歴史的誤訳の例をつぶさに分析し、異なる言語の意味を正しく通訳(解釈・理解)する事がいかに困難であるかを詳細に説明。加えて長年に渡る自分自身の通訳経験に基づく事例も提示。その後、質疑応答の時間をもうけた。